

(5) 甲 信 越



甲信越地域では、景気は一部に足踏みがみられるが、緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きに足踏みがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更)。

前回からの主要変更点

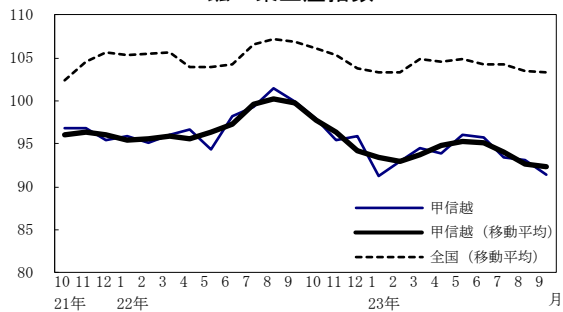
	前回 (令和5年9月)	今回 (令和5年11月)	
景況判断	緩やかに回復している	一部に足踏みがみられるが、緩やかに回復している	↓
鉱工業生産	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きに足踏みがみられる	↓

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きに足踏みがみられる。

7-9月期の鉱工業生産は、前期比2.7%減となった。月別にみると、7月は「電子デバ・電気・情報通信」が減少したこと等により前月比2.5%減、8月は「汎・生産・業務用機械」が減少したこと等により同0.2%減、9月は「汎・生産・業務用機械」が減少したこと等により同1.9%減となった。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4-6 月期	7-9 月期	7月	8月	9月
電子デバ、電気、情報通信	28.9	2.7	▲5.5	▲5.9	0.8	▲2.2
汎・生産・業務用機械	24.8	5.0	▲4.0	▲1.7	▲2.7	▲6.1
食料品・たばこ	12.0	1.3	—	▲0.6	3.8	—
石油・石炭、化学、プラスチック	10.3	0.2	▲1.2	▲2.7	▲0.2	▲0.6
鉄業、鉄合金、金属製品	8.8	▲2.0	1.8	2.3	▲1.4	0.3
鉱工業	100.0	2.5	▲2.7	▲2.5	▲0.2	▲1.9

- (備考) 1. 2015年=100 (全国は2020年=100)、季節調整値。
甲信越の最新月は速報値。
2. 全国及び甲信越の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。
3. 甲信越は内閣府にて算出。

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 7-9月期、9月は速報値。速報値において、化学は医薬品を除いたもの、食料品・たばこは公表されていない。
3. 業種は内閣府にて分類。

2. 個人消費の動向

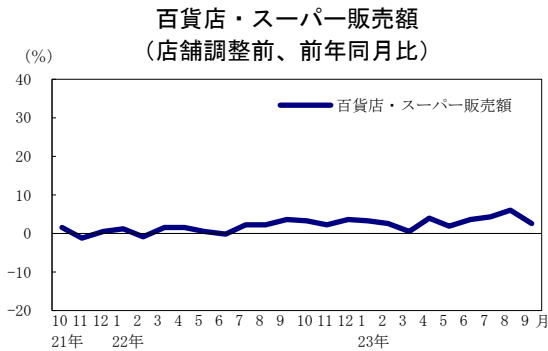
個人消費は持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDE I (消費))

7-9月期は前期比 0.1%減となった。月別にみると、7月は前月比 0.0%増、8月は同 0.1%増、9月は同 0.1%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、7-9月期は前年同期比 4.4%増となった。月別にみると、7月は前年同月比 4.5%増、8月は同 6.1%増、9月は同 2.6%増となった。



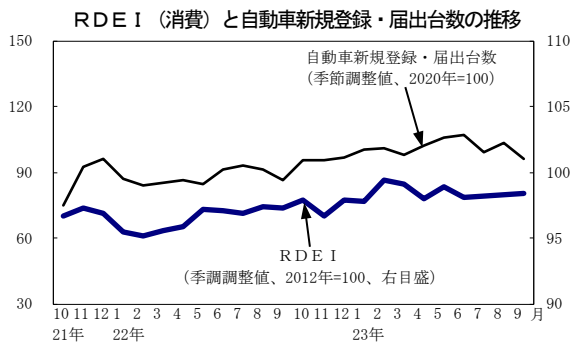
	2023年7-9月	2023年7月	8月	9月
RDE I (消費*1)	▲0.1	0.0	0.1	0.1
百貨店・スーパー(*2)	4.4	4.5	6.1	2.6
乗用車(*3)	9.3	6.7	12.1	9.6
(季節調整値) (*3)	▲5.4	▲7.6	4.3	▲7.1

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

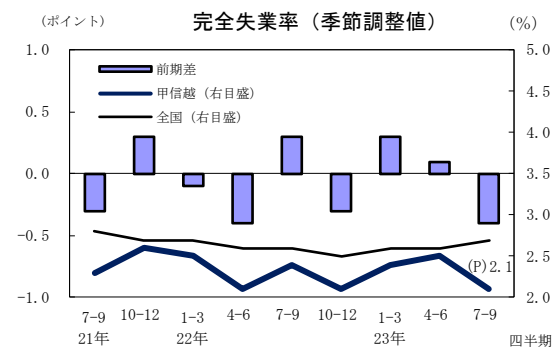
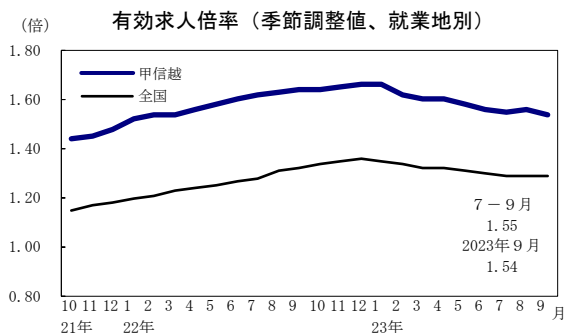
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



3. 雇用情勢

雇用情勢は改善の動きがみられる。

有効求人倍率はこのところおおむね横ばいとなっており、前回の景気循環の平均的な水準にある (P10 参照)。一般労働者の定期給与は上昇している (P10 参照)。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 1. 内閣府にて季節調整

2. 7-9月期の値は暫定値。

(13) 景気ウォッチャー調査（令和5年10月調査）景気判断理由の概要

5. 甲信越

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野	判断	判断の理由
家計 動向 関連	□	・ハイシーズンになり単価は上がってきているが、例年のことであり、経費の上昇分を相殺するための今以上の価格転嫁は難しい（ゴルフ場）。
	▲	・客の動きや商材の動きは相変わらず静かである。身近な物がどんどん値上げされていくなかでは、家電など我慢できる物は購入を控える様子がうかがえる（一般小売店〔家電〕）。
	○	・3か月前と比べて、県外、海外からの宿泊客が大きく伸びている。前年10月は全国旅行支援の恩恵があり良かったが、その前年の来客数とほぼ同じくらいか、若干プラスになっている（都市型ホテル）。
企業 動向 関連	□	・原料価格の高騰や資材価格及び物流費の値上がりにより、売上は伸びているものの、利益は圧迫されており、厳しい状況にある（食料品製造業）。
	▲	・原材料等の高騰により、新聞各社は値上げを行っており、販売店としても売上が増加している。ただし、販売量は前年比で微減が続いており、厳しい状況である（新聞販売店〔広告〕）。
	×	・電気代が3年前の2.4倍になり、到底売上が追いつかない（食料品製造業）。
雇用 関連	□	・新型コロナウイルス感染症の5類移行後の環境や人々の行動変化に乗じたサービス業や宿泊関係業種、介護分野での求人が増加している。また、半導体不足の緩和により自動車関連の生産が回復基調にあり、金属製品、電子関連の製造でも求人が増加している。一方、物価高やエネルギーコストの上昇等の影響も依然として続いており、総体的に景気上昇の感触は薄い（職業安定所）。
	—	—
その他の特徴 コメント		◎：園内イベントやライブイベントが好調に推移し、目的客を十分に確保できており、来客数が増加している（遊園地）。 □：製造業は主力の電子部品やデバイス等、IT関連需要の低迷から、厳しい環境が続く。一方、車載向け半導体の需要改善から自動車部品が持ち直しており、全体としては弱い動きが続いている。非製造業は、観光関連需要の増加から新型コロナウイルス感染症発生前に戻りつつあるが、働き手が不足しており、稼働率を高められないことがネックになっている（金融業）。
分野	判断	判断の理由
家計 動向 関連	□	・客は物価高慣れしてしまって、消費を抑えることが慢性化している（一般レストラン）。
	○	・なかなか景気は戻ってきていないが、これから年末に向けて、人の動きも少しは良くなるのではないかと。また、冬のボーナス支給もあり、お金を使う機会も少しは増えると考えている（スナック）。
企業 動向 関連	□	・受注件数は増えているものの、1件当たりの価格が小口化している（建設業）。
	○	・年末年始商戦等、売上増加が期待できる時期となる。ただし、物価高による買い控えが懸念材料ではある（電気機械器具製造業）。
雇用 関連	□	・有効求人数は減少傾向にあるが、医療や福祉等、人手不足感が強い業種では、引き続き求人需要が見込まれている（職業安定所）。
その他の特徴 コメント		○：年末年始に向けて、企業や子ども会などの団体予約が新型コロナウイルス感染症発生前の水準にどれだけ戻るのが重要である。物価上昇やインフルエンザの流行なども心配事の1つである（その他レジャー施設〔ボウリング場〕）。 ▲：物価上昇もあり、財布のひもは固い（商店街）。

(D I) 現状・先行き判断D I（甲信越）の推移（季節調整値）

